

群馬県立太田特別支援学校 学校評価一覧表(令和7年度版)

(様式)

| 羅針盤 | | | 方策 | 点検・評価 | | 達成度 自己評価 外部アンケート等 総合 | 達成状況の分析 | 学校関係者評価 | 次年度の課題 |
|-------------------------------------|---|---|-----------------------|---|----------|-------------------------------|---------|---------|--------|
| 評価対象 | 評価項目 | 具体的数値項目 | | 自己評価 | 外部アンケート等 | | | | |
| I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。 | 1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。 | ○Tayo通信や学部だより、学校Webページ等から「学校の様子がよく分かる」と90%以上の保護者が評価している。 | 小学部主事 中学部主事 情報部 | ○Webページの更新がスムーズに行われるよう校内全体のシステム作りに努める。 | | | | | |
| | | ○授業参観や学校行事、PTA活動等に「参加しやすい」と90%以上の保護者が評価している。 | 教務部 涉外部 | ○保護者が参加する行事やPTA活動について参加しやすいように見直したり、精選したりする。 ○学部や専門部会での保護者の意見を毎学期集約し、関係者が参加しやすい学校行事やPTA活動の内容の改善を行う。 | | | | | |
| | 2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。 | ○個別面談や日頃の相談等の内容に応じて、「適切に関係機関と連携している」と80%以上の保護者が評価している。 | 小学部主事 中学部主事 | ○児童生徒一人一人の関係機関を丁寧に把握する。 ○必要に応じて、児童生徒の指導支援について関係機関と話し合いの場を設けるようにする。 | | | | | |
| | | ○交流及び共同学習について、保護者や地域、関係機関の90%以上が満足をしている。 | 学習指導部 交流係 | ○学校間交流では、相手校に事前に講話を実施したり、情報交換を密に取ったりしながら有効な交流となるようにする。交流の意義について再確認し、継続して交流できるようにする。 ○居住地校交流では、相手校と交流のポイントについて十分な打ち合わせをもとに実施し、成果等を保護者を含め共有する。 | | | | | |
| II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。 | 3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。 | ○外部の幼児児童生徒等に対する相談に園や学校に出向いたり、電話や来所による相談に対応したりして、相談者の90%以上が有益であったと評価している。 | 地域支援部 | ○案内配布とHP掲示により啓発に努め、迅速に訪問相談を実施する。必要に応じてその後も情報共有を継続していく。 | | | | | |
| | | ○年間6日実施の学校見学、3日実施の学校参観の受け入れ人数を増やすとともに、個別でも学校見学の希望者を受け入れ、90%以上の参加者が満足と評価している。 | 地域支援部 | ○参観者の好意的な意見等を発信し、学校全体で参観者を受け入れる雰囲気づくりを心がける。 | | | | | |
| III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。 | 4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。 | ○児童生徒の実態に応じて、学習内容を精選したり、写真や身振り等の視覚支援ツールを活用したりするなどして、効果的な指導を行っていると75%以上の保護者と職員が評価している。 | 学習指導部 | ○授業内容や支援方法などについて、振り返り検討し、改善していく。また、ICT教材を活用し、教材を共有したり、指導支援方法を共有する。 | | | | | |
| | | ○学校いじめ防止基本方針等に基づいた本校の取り組みが、実際いじめの未然防止や早期発見・早期対応につながっていると80%以上の保護者と職員が評価している。 | 生徒指導部 | ○いじめ防止対策委員会を定期開催する。必要に応じて、臨時開催も検討する。 ○学校生活アンケートを各学期に一回実施し、職員全員で指導支援につなげる。 | | | | | |
| | 5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。 | ○児童生徒の目標を達成できるような授業づくりを行っていると75%以上の保護者と職員が評価している。 | 学習指導部 | ○指導の形態ごとに、個別の指導計画、年間指導計画に基づき、授業づくりを行う。 | | | | | |
| | | ○校内研修や各自で受講した研修等を児童生徒の実態に合わせた教材づくりや指導等の工夫に生かしていると80%以上の教員が評価している。 | 研修部 | ○校内研修に意欲的に取り組めるように、研修係が研修を企画し、各係と連携しながら計画的に実施する。 ○外部の研修案内や資料を周知し、職員が研修に参加しやすい環境を整える。 | | | | | |
| IV 健康や安全の確保に努めていますか。 | 6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。 | ○児童生徒一人一人の健康習慣の確立に向けた支援や対応について、80%以上の保護者が満足と評価している。 | 保健給食部 | ○毎月の保健目標を職員で共通理解し、指導に生かす。 ○通信や保健便りなどを通して、保護者に定期的に情報提供を行う。 | | | | | |
| | 7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えがでていますか。 | ○訓練後に課題が明確になり、次回に向けた改善策が立てられていると80%以上の職員が評価している。 | 安全管理部 | ○昨年度の改善点については、実施前に再確認し、訓練を実施する。 ○訓練終了後にアンケートを実施し、課題点を集約し、改善策を検討し、それをもとに次回の訓練に生かす。 | | | | | |
| V 将来の生き方に結びつける進路指導を行っていますか。 | 8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。 | ○キャリアパスポートは、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるように、有効的に活用されていると85%以上の保護者と職員が評価している。 | 進路指導部 | ○キャリアパスポートの作成について、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるように、児童生徒の発達段階や生活年齢に応じて作成する。 | | | | | |
| | 9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。 | ○学校は児童生徒の発達段階に応じて関係機関の情報提供を行なながら、将来の生活に向けた進路指導を行っていると85%以上の保護者が評価している。 | 進路指導部 | ○保護者向けに高等部(高等特別支援学校)の職員や就労施設の職員による講話を設定したり、中学部において進路選択の关心を高める授業を行ったりして、卒業後の生活についての理解を深める情報提供を行う。 | | | | | |